『「躾」と企業経営（後編）』

～人間として、組織人としての基本が大前提～

税理士法人TACT高井法博会計事務所
TACTグループ関連十二社代表
税理士　高井法博

何をやるにしても、仕事の前に人間としての基本、組織人としての基本ができていなければ折角の能力、技術、業績が正しく評価されず、大切な人生を中途半端に終えてしまう。しかしこれを他責にしていてはいけない。現在の自分の位置は全て自分の責任である。今まで次々と自分に降りかかって来た色々な出来事、その一つ一つに如何に対応して来ただろうか？『好き』か『嫌い』か。『得』か『損』か。『やりたい』か『やりたくない』か。『楽』か『苦しい』か。本能のままに、『好きなこと』『得なこと』『やりたいこと』『安易な楽なこと』を選択してきたのでは無いだろうか？物事にぶつかったとき、逃げてはいなかっただろうか？人生で成功するためには、このような時『正しい判断』をすべきである。『どうあるべきか』『正しいのはどちらか』『人間としてあるべき姿は』と考え、『誤り無き判断』をすべきである。しかし世の中の大多数の人は目先の欲に目が眩み、また辛さから逃れるために安易な道を選び、ネガティブな『考え方』がクセとして身につき自分の人生を形どって行く。今までの人生で私は、ネガティブで成功した人を見たことがない。

一、大善は、非情に似たり。小善は、大悪に似たり。

前号で私は、会社員時代に自分が師事した鬼上司について語った。その当時私は、多少仕事ができた。そうすると、調子に乗った生意気な言動をすることや、多少の失敗が稀にはあった。こんな時他の上司は、私に遠慮し甘い言葉をかけてくれた。しかしこの鬼上司は私を許さなかった。関連会社で総務・経理の責任者として私の能力を超える仕事と対峙し、自律神経失調症から心身に変調をきたしていた時ですら、コーナーへ私を追い込んで逃げることを許さず、あるべき姿で対処することを教えてくださった。人と人との出逢いによって運命は決まる。もしこの鬼上司と出逢っていなかったら、また出逢っていても私がこの先輩から教わったことを聞かなければ、自分の人生はまるで違ったものになっていただろう。愛情を持って人に接していかねばならない。しかし、その愛情は溺愛であってはならない。親も、また職場の上司も様々な人がいる。かわいいからと甘やかし、優しい人もいる。逆に厳しく教育し、『躾』ていく人もいる。信念もなく、相手にイヤなことを言わず迎合しているだけの人は、楽ではあるが決して自分のためにはならずダメにしていくことを知らねばいけない。長い目で見れば、厳しい親や上司の方が子や部下は鍛えられ、はるかに伸びていき、幸せな人生を送ることは論を待たない。『大善は非情に似たり。小善は大悪に似たり。』結局は自分自身が自分にとって本当に良いことなのかどうか、真の愛情は何なのかを気付かなければならないことである。

二、会社が、いまや家庭教育と学校教育を叩き直す最後の砦となる

誤った民主主義で教育され、成育過程でも怖いもの知らずで甘やかされて育ってきた子供達が会社に入ってくる。この部下に対し、上司はしっかりとした基本教育を行う必要がある。基本教育とは家庭教育、そして学校教育の再教育である。つまり上司は自分の部下に対して、子供に対する父親、生徒に対する先生の役割を果たさなければならない。これは上司にとって目先の仕事より本当に厄介で難しく、骨の折れる辛い、根気のいる仕事ではあるが、最も重要な仕事の一つであることを心に強く留めてほしい。これを疎かにすると会社の業績は上がらず、どこにでもある弱小企業となり、時の流れの中で消え去る運命となる。しかし何よりもこの部下が、仕事のできない使いものにならない部下、人間となってしまうことを自覚してほしい。当事務所の社員も、またお客様も御指導を頂いている㈱アイウィルの社長、染谷和巳先生には『部課指導の基本教育』として次の七点の徹底を教えていただいている。

① 『挨拶』
② 正しい『返事』
③ 『姿勢と歩き方』
④ 『謝る、感謝する』
⑤ 『解らないことをきくこと』
⑥ 『マイナス思考の削除』
⑦ 『報告・連絡・相談』の徹底

優良企業は一〇〇％厳しい幹部が存在している。著名な経営コンサルティング会社、タナベ経営や船井総研でも企業の経営改善の成否は、鬼軍曹ができるかどうかであると教えている。これが出来れば経営改善はできたも同然であるといわれる。この原点は『躾』の徹底であり、まずは上司である幹部と部下の縦の関係にけじめをつけることが大切で、上司への言葉使いや気配りまで、社内の『躾』がそのままお客様への対応となって実践され、お客様が感動する気配りとなる。厳しい企業風土で育ち、厳しい上司・先輩に直接指導を受けた人間が優秀な人材となり、優良企業、ひいては地域・日本を創り社会に貢献していく素晴らしい『人財』となる。